

新年のごあいさつ

## 2013年の合言葉は「現場」

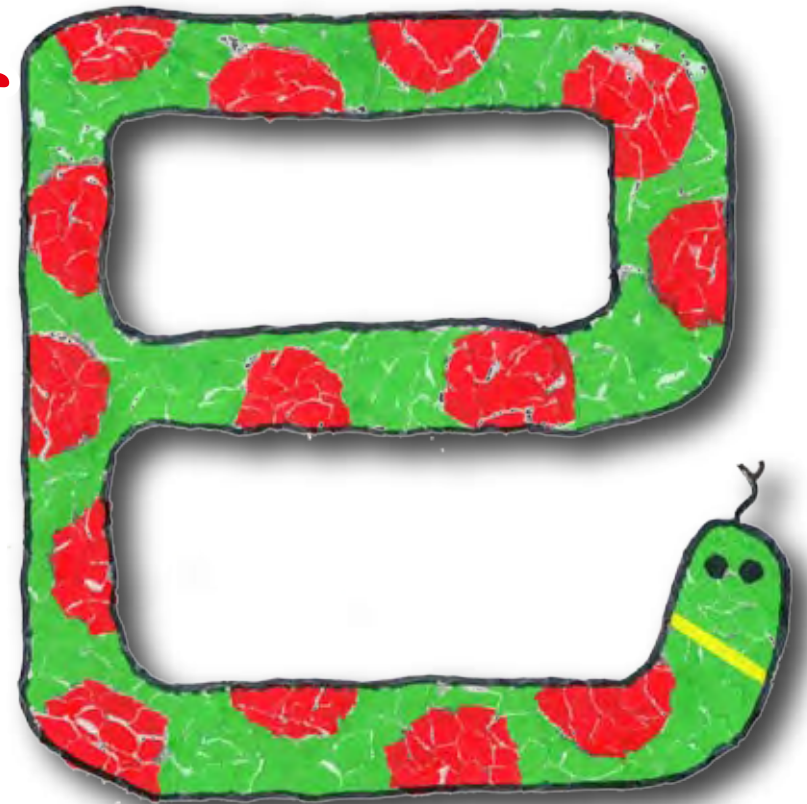
橋下さんの舌禍事件は多いが、総選挙の最中の地下鉄の清掃の入札を巡り「大阪の一流ホテルを掃除している業者が落札した」という街頭演説もまたその類だった。交通局長がすぐに訂正して、事なきを得たようなので、挙げ足を取る様なことを言うつもりはない。ただ、発注者の大阪市が、ホテルのトイレを綺麗にしている業者に、地下鉄のトイレを綺麗にして欲しいというような主旨のことを、入札の公募の段階で喧伝されたとのことで、一言だけ言いたい。この際、地下鉄のような「公衆トイレ」はどうあって欲しいか、その価値はどれほどのものか、発注者としてちゃんと提案して欲しいものだ。もちろん、高齢者や障がい者やさまざまな疾病を抱えた利用者のことも考慮して。そして、ただ業者にやらせるというだけでなく、利用者の協力も含めてだ。ボクは、橋下市長の舌禍が「事の始まり」になったらと密かに期待している。都市の「現場」に立ち入って見るということで、ゴミの回収問題等もそういう切り口が必要だ。そうして橋下市長が「現場」感覚を磨いてくれたら、名市長になる。

何も、新年の挨拶で橋下論をぶつつもりはない。わが社の竹中君は、最近、「賃貸住宅の管理は福祉だ」と自論を口にする事が多い。社長のボクは、これを「社会住宅」だと論ずるだけだが、彼は日夜、家庭内暴力や借金の取り立てに苦しむ入居者に寄り添っている。ちょっと話が長いのが欠点だが、とにかく粘り強い。それが「現場」だと、ちょっと反省も込めて、(株)ナイスの今年一年の抱負を思い浮かべた。橋下市長と競って、わが社も、「現場」に徹して、都市(にしなり)生活を支えて、まちに「溶けていく」。

今年も、(株)ナイスをよろしく願います。遅れましたが、新年あけましておめでとうございます。

(株)ナイス代表取締役 富田一幸 社員一同

# 謹賀新年



発行日 2013年1月1日  
創刊日 2007年1月1日  
発行 株式会社ナイス  
発行人 代表取締役 富田一幸  
印刷 (有)前山企広  
住所 大阪市西成区長橋3-6-33  
電話 06-6563-1156  
E-mail info@nice.ne.jp  
H P http://www.nice.ne.jp/

切絵作成:MA

## 友識者たち2



出席者：荒木幹雄／飯島照喜／田岡博行／瀧本衛／谷元昭信／富田一幸

衆議院選挙が終わり、何かしらむなしい徒労感を感じた人たちも多かったと思います。しかし、自分たちの地域や暮らしを考える人たちにとっては、実はこの現実が新たなスタート地点になったと実感しているのです。地域に足場を持つ人たちに集まってもらい、選挙後の雑感を語りあいました。

インタビュアー：佐々木敏明 / 記録：安田壽斗・川井友二

### 選挙戦の印象

佐々木：今回の選挙は、何を争点にしたかったのか分かり辛い選挙だったのではないかな。TPP、原発、消費税など、トピックはあるが、政党としてのビジョンが全く見えてこない、語られない選挙でもあったと思う。まずは、この選挙結果の印象などをお話していただけたらと思います。

荒木：民主党が思っていたより悪く、自民党がひとり勝ちという感じはある。維新の会が伸びず、未来の党への期待票が出なかった。中でも自民党の国防軍の話だとか、かなり右寄りの意見があって危惧している。そこに対抗する、例えば庶民の生活を守るグループが見えてこない。それと、もう少し政策の議論をするべきだと思うね。それぞれ意見は違っても、論点がオープンにされないとうわりなくと思った。

飯島：未来の党について言えば選挙をしているという感じがなかった。自民党が圧勝するだろうと有権者もわかっていたので、候補者も戦う前にして、その気運があったのではないかと感じた。

それと荒木さんが言われたように、自身の議論が全然ないということだ。その方が怖いなというように感じる。

谷元：全体的に争点なき選挙だった。国防軍などや公序良俗など自由の問題にはタガをかけてきている。保守色は鮮明に出ているが、対抗軸が何も提示できていない。だからこそ全体に熱気がなく、自民党の圧勝になったのではないかな。もっと明確に争点がわかるようなスタンスが必要だった。今後はそんな対抗軸をつくる運動と組織を地域から作り直さないと、この状態は続かないかという気がする。

田岡：今回の選挙で感じたことは、世間が右向きに反応したところ。尖閣問題などでマスコミにも煽られた。そこが変なナショナリズムにつながって、それを安部さんが柱に据えてきたところがあると思う。政党政策はあると思うが、リーダーがどうかということが大きく左右して、政策が目まぐるしく左右に思った。それと、選挙結果から怖いと感じるのが憲法の改正だ。自民党と維新の会が一緒になって憲法を変える方向に進む勢いが加速しない

かと、非常に強い危機感を持っている。  
瀧本：結果から見れば自民党の大勝だが、3割の得票で6割の議席。前回の政権交代の時もそうだが、小選挙区制が問題だなというのがまず一点。それと、安部さんの右傾化。これが本当に怖い。参議院選挙の結果によっては、本当に問題になってくると思う。経済政策もある意味財界寄りで、大企業には利するけれども、多くの国民にとっては非常に不安な政権になっていく。そういう意味では、参議院選挙では本当に自民党を勝たしてはいけないと思っている。

富田：選挙というのは中流層が決めるんですよ。一番多いから。民主党が政権を取ったのは、この人たちからの「改革しても良いよ」というサインだったと思うが、残念ながら民主党は何一つ改革しなかったし、消費税増税で完全に裏切った。今回は、「改革必要」と思っていた中流層の多くが、自分の身が可愛くなって自民党や公明党に回ったんだろうなと思う。反面、改革の担い手として頑張ったのは維新の会とみんなの党で、そういう意味では、一定の支持も受けて当たり前だ。あとは、未来の党は残念ながら作戦ミスで、橋下さんと組んでオリーブの木を作るつもりだったんだけど、右からも左からもというイタリヤのようなオリーブの木ができなかったから、保守派に負けたということだ。

### 選挙の争点

佐：消費税の問題がもうひとつわからなくなってしまいました。

富：僕はやっぱり消費税が今回の選挙の最大の争点だと思う。でも争点だと言いながら、消費税反対だという人は、維新の会やみんなの党に入れるしかなかったわけで、自民党が大勝ということは、やっぱり消費税増税反対はあきらめたんだろう、国民は。

荒：消費税増税の時に、増税反対がいなかったんですよ。それは「3年後には必要です」と代表者が言っているから、市

民は「消費税は上げないといけないんだな」という雰囲気は全体にあったと思う。

富：非常に先行きが不安だという状態で、消費税の議論をしたのは日本では初めてだけ、それでも中流層の人は賛成しなかったんだろう。

谷：経済成長も右肩下りの状態で、社会保障費は上がって、どこで補填するんだということ、消費税増税に賛成しれないと判断したんじゃないか。問題は消費税増税の仕組みが十分議論されていないということじゃないか。

富：違う。政権交代の時に、民主党は増税しないと言ったんですよ。「増税は反対だったでしょ？だから増税に賛成しているというのは嘘でしょ？」と言いたいんですよ。

谷：それは増税しないという言い方じゃなくて、自分たちが政権の時に4年間は手を付けられないという言い方だったじゃない？

富：違う違う。消費税増税以外にも財源があると行ってた。民主党支持の人は、増税が無くても改革できるから支持してたんでしょ？

田：いろんな予算を揺さぶったら財源が出てくるということに期待したけど、やっぱり出てこなかったということじゃないですかね。

富：出てこなかったんじゃないかと、出さなかったんですよ。社会保障を改革するとか。それなのに消費税増税の理由は、「厚生年金がしんどいから税金から補填する」だった。有るから良い、無いからダメということでは、民主党を支持



した人は崩れますよ。我々はそれを支持してるんだから。

田：それが出なかったから崩れて、今言う通り、世論でいうと賛成だという方向に移ってきている。

富：それは、もうちょっと努力してよって思う。なんかペテンなんです。出せるって言って出せなかったから増税する。「あれ？急な話だな」って思う。絶対に増税反対です。社会保障の財源が乏しくなったなら、社会保障から出しましょうよ。それをせずして増税をすると、社会保障の負担を巡って強い者と弱い者の差が出る。また弱い者のところだけに負担が行くわけだ。

谷：社会保障制度を改革したら、そこから相当の財源がでて、それで新たなところに振り向けることができる？

富：いや、増税の根拠である社会保障を諦めたら良い。財源がなければ、分相応の財源で我慢する。増税の必要なんで一切ないって言っている。年金とか医療の金がないから増税するというなら、それはペテンでしょ。そうしないと何でも増税になってくる。

田：「社会保障と税の一体改革」が一向に進まない中で、片方だけというのはね。バックボーンとなる経済を上げる方が大事という議論がありますね。そんな事だって併せて検討して増税というのであればわかるけど、確かに何故あのタイミングで増税なのか。

富：この数年の増税理由はすべて社会保障だ。でも消費税上げたら福祉が回ってくるって言う意味でもない。維持するって言うてるんですよ。それは、高い厚生年金をもらっている人は高いまま、貧乏な人たちは低いまま維持されるのか？ということだ。

瀧：国民会議での議論が逆ですよ。こうなったからこれだけの財源があるというようにしなければいけなかったわけですね。

谷：そうそう、そっちが全然進んでないんだよね。そういう一体改革だと言いながら、本来やるべき社会保障の改革を明確にせずに、こっただけ上げるから

「そりゃおかしいやないか！それは反対や」と。

富：名古屋の市長が減税だと言っていて、庶民の気持ちを良くわかっているし、政治家の思想として税金を下げることは間違っていない。それから橋下がやった、公務労働や公共サービスを見直したというのも正しい。ただ、「そこだけしか言わないようではあきまへんで」ということだ。しかし、民主党は、何もしないと。消費税と生活保護を減らそうと思っている。それでは生活保護を削るだけで、浮いた金をパーソナルサポートなどに回すということをやっていくんだろうし、こんなに格差拡大社会を作っているのは今の増税路線だと思えますね。



### 右傾化日本？

佐：先ほどの右傾化論議についてですが、例えば尖閣、竹島問題など、中国・韓国とは関係性を良くする必要があると思うけれど、マイナス方向に流れていってしまっている。先ほどナショナリズムについても出ましたが、これは右傾化なのか、それとも日本人自身が歴史を理解していない認識不足の問題なのではないか。領土問題は、個人的にはどうでもいい問題だと思っていて、従来通り棚上げで良いと思うのですが。

谷：その辺は、橋下が言っていたように共同管理でいいんじゃないかな。地下資源問題が深く関わっているから思惑が



絡んでいるけど、国境紛争になりそうな領土に関しては、国連への提訴による調停案を以て共同管理するべきだ。へたにいじると訳のわからないナショナリズムがどんどん出てきてしまう。

富：どっちにしろ、日米は倦怠期なんだと思うな。こうやってみると自衛隊のままで良いはずないよなと思えますね。国防軍つくるにしても止めるにしても、そろそろ何か決めないと中途半端な自衛隊という状態は、議論が起こって当たり前という気はするね。

瀧：防衛予算は世界で4位です。憲法九条を変えれば軍隊がもてるのでしょうか。

谷：九条は徹底的に語られなければならない。ただ九十六条改正問題は手続きの問題。自衛隊ではダメというのであれば自衛隊を解体させればいいわけですよ。それで国際社会の中で、日本の役割が果たせるかという議論をしておかなければいけないけど、ここが中途半端なままになっているというところに問題があると思う。

富：しかし、今回、どの党も変わらなかったね。右寄りって言うてるけど、自民党は右寄りの言葉を使ってるくらいで、どの党も中身はほとんど一緒。それにしても憲法はねえ、アメリカとの関係が大きな問題なんですよ。

佐：沖縄がなおざりにされていますよね。今回の選挙でも沖縄は全く争点にならなかった。

富：もっと議論をしないと変わらないだろう。アメリカと手を切ったら基地をなくせるけど。九条って味な言い方すると、アメリカ追従とも取れる。軍隊

でもないのに多額の予算をつけられるのは、アメリカが言っているから成り立っているんですよ。極端に言うると日本ってアメリカの属国かなというくらい難しい問題だと思うね。

荒：アメリカの言いなりというところは強いだろうね。日本の学者なんかにもそういうのがあって、日本で決めてるような形だけど、アメリカの圧力っていうのが陰にあるっていう気がするね。

富：アメリカの従属でいいけど、その代りアメリカの議会で日本人が参加させてもらうというのはどうかな。アメリカの民意を決定する事項に、日本にも参加させてくれと。要するに、沖縄の基地提供者として、そういうポジションが欲しいというわけです。

谷：それは沖縄住民が（アメリカ議会に）行くの？

富：当事者じゃなくてもいい。要するに、こんな議論していても沖縄問題は変わらないと思う。アメリカがどう考えるかが沖縄の全てになる。アメリカが世界平和をどう考えるかということに参加しないと、日本であらうやって、それは無理だ。アメリカは沖縄という形で日本を侵略してるけど、代わりに防衛という意味で犠牲を払っているわけですよ。そういう意味で言ったら、アメリカがもっと優しい国になってほしいなというように、僕らは運動した方が良いという気がする。

谷：保守の草の根が大きかったのではないかな。リベラルか保守かという対抗軸になってきている。

### おわりに

間接的あるいは直接的民主主義についても話がなかったのですが、ダイアログではちょっと時間に無理がありました。それでもこのまちで仕事し暮らす人たちの視線は、目先ではなくそのちょっと先を眺めていることが確認できてよかった。（佐々木）

新しいものが幅をきかせ、それまで使われてきた道具は捨てられる  
 便利さや能率が、文化という人の営みや育みを追い払う  
 知恵や工夫こそが、生活を支えるみなもとと考えるなび編集部は  
 かつてわたしたちが活用してきたものたちに登場してもらおうと考えた

## 第15回

## 消えゆくことば3



硯

11月及び12月号のなびでは、私が過去住んでいた民家の、おもに一階部分の住居空間や道具類についてお話ししました。玄関に入り、あがり框（がまち）に足を踏み入れると四畳半ほどの板間があり安物の敷物が敷かれていました。ここが我が家の応接室兼親父の書齋として機能し、狭い部屋には応接用の二脚のイスとテーブルがあり、来客のある時はここで対応していました。

父の小さな洋机の上には硯箱（すずりばこ）や書籍、書類などが置かれていました。硯箱の中には文鎮（ぶんちん）、硯や墨、筆などが丁寧に整頓されていて、父が暇時に毛筆を使って書道に専念していた状を思い出します。

私たちの世代には小中学校で書道の授業がありました。硯や墨、筆、緑色の下敷きや文鎮などをセットにしてカバンに入れ通学するのですが、この授業だけでもカバンが重くなり、しかも授業中に硯で墨をすり続けたり、文字を書いたりすると墨で手が汚れてうっとうしく、大嫌いな授業であったのです。現在中学校では毛筆の授業はなくなっているようで、学校での書道は実質的に“化石化”しつつあるようです。

私は後年、表現の仕事をするようになったため、毛筆で絵の具を使って絵を描いた

り、文字書きをする機会が多く、今から思えば、もっと書道の授業に励んでおけばよかったと後悔しました。

書道の授業は、文字を上達させることは勿論ですが、実は書道を実践する際に姿勢を教えているのであり、知性や品格、あるいは我慢を養う伝統的修練を教えていたのです。その集積が芸というもので、まさに落ちこぼれ少年にとって書道のみならず、学問すべてが「少年老い易く学成り難し」への反省なのでした。

二階へはこの部屋の奥にある階段を上ります。6畳二間の居室があり、東側には立て付けの悪い全面開閉のガラス戸があり、外に出ると物干しがありました。今ではベランダが通称なのですが、この頃は物干し



物干し

ています。ベランダと違い物干しは家屋から独立していて風通しがよく、しかも洗濯物を高い位置に干すことが出来るため、乾燥には最適だったと思います。夏場などは夕涼みなどに利用したこともありました。

物干しはすべて木製で時には腐食し、よく父が補修の大工仕事をしていました。或る時祖母が物干しの一角に身体を触れた瞬間、腐った木枠が重みで裂けて砕け散り、そのまま真下に落下してしまったことがありました。運良く下には父がいて、突然落ちてきた祖母を受け止め難を逃れたという事件です。我が家では、祖母の落下事件として久しく語り継がれたりしたものです。

この物干しと家屋を分かつガラス戸を守る役割をしたのが雨戸でした。今ではシャッターなどに取って代わりましたが、当時の雨戸はやはり木で出来ていました。戸袋の中に幅半間（90cm）ほどの雨戸が格納されており、ガラス戸と並行するレールに沿って引き出します。私の家のガラス戸は4枚あり、それぞれが半間ほどのサイズであったので、戸袋には雨戸が4枚入っていたと思います。台風や大雨からガラスを守るだけではなく、内側から鍵がかけられ防犯にも役立ち、冬などは暖房の味方でもありました。

北区天神橋に或る「住まい情報センター」内にある「大阪くらし今昔館」には、江戸時代後期の商家や店舗、民家の町並みや風物などを原寸ジオラマで楽しく見せてくれます。とくに町家などの裏側の二階に設置された物干しは、私たちの時代に見た物干しとそのまま同じ形で、連続と引き継がれてきた風景であったことがわかります。



雨戸と戸袋

西側の部屋にある窓を開けると、窓幅から外側にむかって30cmほど張り出した木製の縁側がありました。ちいさな子どもが一人ねっ転がれるぐらいの濡れ縁の役割は落下防止でしょうが、無味乾燥な窓に装飾的なベランダを附加した、いわば無駄の美なのです。

無駄といえ、2階の階段側居室の壁には直径1mほどの丸窓が繰りめかれていて、竹棒が真ん中斜めにめぐらされ、裏側に障子がはめられていました。障子をはずせば階段を覗くことが出来ました。丸窓は部屋にアクセントをつけるデザインであり飾りです。しかし、階段なかほどの薄暗い照明の光が、夜間、障子の裏からほんのり映えるさまは、まさに谷崎潤一郎の『陰翳礼讃（いんえいらいさん）』で語られた、日本の闇と光のコントラストである情感がありました。

今ではライトアップとかで光が饒舌になり陰影へのたしなみが薄れ、日本の美が廃れゆくばかりです。

※物干及び雨戸の写真は「大阪くらしの今昔館」のジオラマです。

## ビッグ・アイセミナー フェアトレードって？

先進国に比べ福祉制度が充足しない途上国では、食べていくことさえ困難な障がい者も多いのです。しかし、アクセサリーの開発や食料品の販売などを行い経済的に自立している障がい者や、病院、学校などの事業を運営する障がい者の団体もあります。

フェアトレードとは、途上国の障がい者や女性など、経済的、社会的に弱い立場の生産者に仕事の機会をつくり、公正な対価を支払うことで、自力でくらしが向上できるよう援助する支援活動のことです。

ビッグ・アイセミナーでは、日本のフェアトレードではパイオニア的存在の、ピープル・ツリー常務取締役である嵐森<sup>たねもり</sup>なお子氏を講師に迎え、魅力的な商品開発、品質管理、販路開拓、消費者ニーズなどフェアトレードに欠かせない基礎編を話していただきます。

テーマ：フェアトレードに学ぶ商品開発、マーケティングの基礎

講師：嵐森なお子（ピープル・ツリー常務取締役/広報ディレクター）

日時：2013年2月16日（土）14:00～17:00

ところ：ビッグ・アイ（国際障がい者交流センター）研修室

定員：70名（要申込=手話通訳・点字プログラム・音声補聴）

盲導犬同伴可

対象：障がい者の収入アップを目指す福祉施設や団体職

員/学生・一般の方入場無料（予約をお願いします）



国際障がい者交流センター（ビッグ・アイ）  
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台 1-8-1  
TEL 072-290-0900 FAX 072-290-0920

♪ーんぐんぱんぱん♪  
♪あーん♪

2013年の幕開けです。  
今年もよろしくお願いします。

なび愛読者のみなさんは、  
2013年はどんな年にしたい？  
又はしようと思えますか？

私は365日1日1日を、  
大事に生きる2013年にしたいと思います。

朝、目が覚めたら喜ぼう。  
昼はいっぱい笑顔で頑張ろう。  
夜は1日を無事に過ごせた事に感謝しよう。

私は眠たい目をこすりながら、  
東の空から昇る新年最初の  
オレンジに輝く太陽に約束したワンワン!!

MA



## 社会福祉の分裂に立ち入る

ボクは昔こんな話をしつこく繰り返していた。失業率5%とかいうと抽象の話だけど、西成で（稼働年齢の）生活保護受給者や就職相談に来る人の住所を地図に落としていくと次々に塗りつぶされていく、複数の困難者や求職者がいる家族を黒塗りにすると、これがけっこうな数になる。地域や家族に失業が偏在する。共働きならぬ「拳家労働」で働き、時に「拳家失業」している。そして、生活保護の「世代間移転」など悪循環を繰り返している。昔々同和問題の勉強で教えられた「多問題福祉」がずっと続いていた。ボクが、これを「失業の偏在」と言って、失業者はハローワークにいるのではなく、あなたの隣にいと訴えて「地域就労支援事業」を提案したのは2001年の頃だった。

部落出身者と部落外の人との婚姻は随分進んできていたことを指摘する人は多かったが、一方で、厚生年金の男と厚生年金の女が職場結婚し、国民年金の男と国民年金の女の結婚に「分裂」していている状況を指摘する人は皆無に近かった。同和対策の進展の中で、とくに部落内の「分裂」は顕著であった。ボクは、西成のこうした現実を、「貧困や困難が一方通行で西成にやってくる」と評していた。

あれから20年ほど経った。西成の生活保護は急増したが、その大半は高齢者で、あの頃、国民年金と国民年金の結婚、はたまた「拳家労働」してい

た人たちで、「世代間移転」から抜け出せなかった人もいる。共済年金や厚生年金の人は社会で多数派になって、多分この総選挙でも、年金や社会保障の行く末を考えながら一票を投じた人も多いだろう。一方、社会の「少数派」になった人たちは、自分には縁のなさそうな年金の話に頓珍漢な相槌を打ちながら、誰に入れるのか迷われただろう。そして、期せずして、あの頃まだ少年少女だった人たちも「少数派」に仲間入りしてきて、社会福祉はさらに「多問題」になったし、その分政治も流動してきた。

社会福祉はいつも選挙の争点になるが、どの党も社会福祉の「分裂」に深く立ち入らない。せいぜい、公明党が消費税を上げても、生活必需品には軽減税率を適用すると言っただけだった。公明党は創価学会員さんから社会の少数派の声を聴いているからなんだろうが、ほとんど焼け石に水の政策だと思う。ボクは、中川治さんの選挙を手伝いながら（ちょっとだけだったが）、社会福祉を聖域のように扱う政治は、かえってその聖域に足を踏む入れようとしぬものだと痛感した。橋下さんも、自分の言葉で語る稀有な政治家だけど、福祉はいたって苦手なようで、急に口下手になった。部落解放運動や社会運動や社会的企業は、自らの役割を見直した方が良いと思った選挙だった。

（株）ナイス代表取締役 富田一幸



# hidarimakiの この逸編 裸の島



監督/脚本：新藤 兼人  
音楽：林 光  
キャスト：乙羽 信子  
殿山 泰司  
製作：60年代映画協会  
モノクロ作品/95min  
DVD発売元：角川映画

戦後間もなく瀬戸内に浮かぶ孤島から子どもたちが集団で逃亡した事件があった。子どもたちへの強制労働や暴力、虐待が行われ、その辛さに耐えかねた結果の脱走であった。しかも事件の背後に子どもたちの人身売買が判明した。社会を大きく賑わし『怒りの孤島』と題され、その後ラジオドラマや映画（58年）にもなった。

僕が中学生の頃封切りされたこの映画はカラー作品で、親方に殴られたり、少年たちの顔に血がにじむシーンは、長い間記憶に残る怖い映画であった。作品の全容は忘れてしまったが、同年代の少年たちへの同情と、瀬戸内の海上で起こる残虐な暴力状景だけが今も鮮烈に残っている。そしてこの映画の監督が『警察日記』『つづり方兄弟』などの久松静児であり、戦前は新藤兼人らと同僚であっ

たことなどを知った。

その新藤兼人監督は本年5月に永眠した。『原爆の子』『第五福竜丸』『裸の十九歳』など、社会の不条理や人間の情念を描き、性に着目した。又優れた映画の脚本を残すシナリオライターとして知られ、近代映画協会という独立プロを牽引するヌシでもあった。

『怒りの孤島』が上映された2年後の60年、新藤は同じ瀬戸内海に浮かぶ小さな島を舞台にした脚本を書き演出をした。それが『裸の島』で、これはモスクワ国際映画祭でグランプリを獲得した。当時の新藤は、久松の社会性の強い『怒りの孤島』を見ていたかもしれないし、テーマは違っても同じ瀬戸内を背景とする『裸の島』を作る契機にしたかもしれない、というのは僕の想像にすぎない。新藤のテーマ性から、閉鎖された場所、ハレやケを残す土俗性、農耕や狩猟を源泉とするものに触発されたとしても、『裸の島』は別格の傑作として映画史に足跡を残し、語り継がれるべき映画だと思う。

この映画は、映像と作曲家林光の音楽だけが見るものを誘導してくれる。そして4人だけという出演者たちの演技を超えた力闘で、島の自然と暮らしの過酷さを静かに見せてくれる。映画手法はサイレントだ。しかし音声が無いわけではない。先ず林光のメインテーマは、この映画にはなくてはならないエレメントになっている。ふつつ動と静、悲しみと喜び、寒さ暑さ、緩と急などシーンに応じたメロディーやリズムの変奏があったり、異つ

た音色で表現されたりするものだが、どんな場面もほぼ同じテーマ曲が流される。つまり変奏曲や違う曲がほとんど使われない。しかし、どんな場面も不思議にその曲がフィットする。映像と音楽が相互に主となり従となって共鳴しあう稀な映画だとあらためて思う。

もうひとつの音声は、自然界の音や家畜、遠方の打ち上げ花火や人の歩く背景音、家族だけが分かち合う笑い声と泣き声だ。この小島に住む者は4人のほかにいない。その4人のセリフさえこの映画はそぎ落としている。ここで聞こえる僅かな笑い声、泣き声だけがこの島の貧しい暮らしの中のすべての感情をあらわしている。

早暁の瀬戸内海のお椀をかぶせたような島から小船が出発する。水の無い島ゆえ夫婦で隣島まで舟を駈り、天秤棒で水桶を担いで水を補給するのが日課だ。補給が終ると舟に水桶を乗せ再び櫓（ろ）を操って島に戻っていく。2人の子どもたちは両親が戻る間に朝食を作り、家畜の世話をする。島に到着した夫婦は、急峻な山道を肩に食い込む天秤棒にぶらさがる水桶の大切な水を、一滴たりともこぼさぬよう、ゆっくりゆっくりと運搬する。

食事が済むと父は後片付けをし、母は再び隣島の小学校へ船で長男を送る。櫓を操り長男を学校に届けた後、村で再び水を補給して島に戻っていく。父は家事を済ませた後、運んできた水をサツマイモ畑に大事に水をやる。天日に干されて乾いた土に水は瞬間に吸われていく。母が島に帰還し、再び水桶を



抱えて山道を登り父の作業に合流する。作業が終わればまた船で隣島まで水の補給。そして、夕方には長男を迎えるために母は舟を出しその日最後の水を補給して長男を待つ。そして、夕食を家族みんなが分担しあい準備をする。子どもたちが就寝しても、父は夜なべで大豆を碾き臼で粉にしている。

この家族の一日はこの繰り返しである。水をもらいにいく。田に水をやる。僕らはこの原始的生活の繰り返しを、自らの生活に比して刺激的な異文化として見るのである。

島の頂から小さな煙が一筋天に昇っていく。小さな舟が島をグルッと一周する。カメラが俯瞰（ふかん）しそれらの状景をゆっくり丁寧（だび）に追う。煙は突然の死を迎えた長男の茶毘（だび）の火だ。島をめぐる舟は、友人を野辺送りした後再び隣島に帰っていく、僧侶や先生と同級生たちが乗る小船である。ひととき印象に残る詩的映像にあの音楽が重なる。

長男の死を悲しむ余裕もなく、厳しい家族の生活にも変化はない。映画は冒頭の瀬戸内海へとエンドレスに戻っていく。労働の寓意と神話のような揺らがぬ象徴性を秘めて確かな逸編として僕の記憶に残された。

hidarimaki

